



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：

担当者の所属・氏名 臨床研修部 関谷 智

【研究責任者】

聖路加国際病院 臨床研修部 関谷 智

【指導医】

聖路加国際病院 感染症科 森 信好

聖路加国際病院 感染症科 長谷川 諒

聖路加国際大学 専門職大学院公衆衛生学研究科 Mihye Lee

当院で血液培養検査を受け、陽性結果が出た方を対象とした 陽性のセット数が患者予後へ与える影響に関する比較検討

1.研究の対象

2004年4月から2021年3月までに血液培養検査を実施し同タイミングで2セット採取かつ1セット以上が陽性であった18歳以上の成人。

2.研究の目的・方法

血液培養は菌血症の患者様に対して原因となる菌体を同定し、適切な抗菌薬の選択や治療決定に重要な役割を果たす検査です。検体は好気ボトル・嫌気ボトルの2本で1セットであり、菌体検出の感度をあげる目的で複数セットでの採取が推奨されていました。しかし培養陽性となった検体のセット数が患者様の予後へ与える影響について検討した研究はこれまではありません。本研究では血液培養陽性セット数の違いによる死亡率、ユニット病床入室率、持続菌血症の持続期間など11の項目で比較を行います。血液培養検査における複数セット採取の重要性を再確認するとともに生命予後を予測する際の一助となる事が期待されます。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2022年3月までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》年齢、性別、病歴、既往歴、バイタルサイン、血液検査、画像検査、血液培養陽性の菌名と感受性、カルテ番号 等

《試料》なし